

リサイクル計画書（積算段階）

工事担当者が作成し、設計書に添付

1. 事業（工事）概要

発注機関名	香取農業事務所	工事名	香北第3 既設管処理工事
施工場所	香取市津宮地先外	工期（予定）	令和9年1月29日
工事概要等	既設管処理工 L=449.8m 内、既設管撤去工（ACPφ400・VUφ100） L=312.7m 内、既設管撤去工（ACPφ300） L=122.1m 内、既設管充填工（ACPφ400・VUφ100） L=15.0m 舗装本復旧工 A=277		

2. 建設資材利用計画

建設資材	① 利 用 量	② 現場内利用量	③ 再生材利用量	④ 新材利用量	⑤ 再生資源利用率 (②+③) / ① × 100	備 考
土 砂	872 地山m3	770 地山m3	0 地山m3	102 地山m3	88.3 %	
砕 石	1 トン	0 トン	0 トン	1 トン	0.0 %	
アスファルト混合物	33 トン	0 トン	33 トン	0 トン	100.0 %	
	トン	トン	トン	トン	%	

※ アスファルト混合物の欄には、車道排水性及び歩道透水性舗装用アスファルト混合物の利用量は含めないものとする。

※ 最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

指定副産物の種類	⑥ 発 生 量	⑦現場内利用量 (減量化量)	⑧他工事への 搬出量	⑨再資源化施設 への搬出量	⑩ストックヤードへの搬出量	⑪現場内利用率 (⑦/⑥) × 100	⑫有効利用率 (⑦+⑧+⑨+⑩) / ⑥ × 100	備 考
建設発生土	第1種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
	第2種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
	第3種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
	第4種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
	泥土（浚渫土）	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
	合 計	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン		%	%	
アスファルト・コンクリート塊	33.30 トン	トン	トン	33.30 トン	—	0.0 %	100.0 %	
建設汚泥	0.02 トン	トン	トン	0.02 トン	—	0.0 %	100.0 %	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	—	%	%	

※ 建設発生土の区分（既存資料から判断するものとする）

①第1種建設発生土・・・砂、礫及びこれらに準ずるもの。

④第4種建設発生土・・・粘性土及びこれらに準ずるもの。（第3種建設発生土を除く）

②第2種建設発生土・・・砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

⑤泥土（浚渫土）・・・浚渫土のうち概ねqc2以下のもの。

③第3種建設発生土・・・通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

※ 建設発生木材の中には、伐開除根材及び剪定材を含む。

※ 建設汚泥、建設発生木材の、「⑦現場内利用」の欄には、上段に現場内利用、下段に現場内での減量化量を記入する。

※ 「⑩ストックヤードへの搬出量」には、他工事に再利用されることが予定される場合のみ記入する。

※ 「他工事」には、他機関の公共工事や民間工事を含む。

リサイクル阻害要因説明書 (当初)

目標値に達しない場合に作成し、設計書に添付

別添 4

発注機関名	香取農業事務所	工事名	香北第3 既設管処理工事
施工場所	香取市津宮地先外	工期	令和9年1月29日
工事概要	既設管処理工 L=449.8m 内、既設管撤去工 (ACPφ400・VUφ100) L=312.7m 内、既設管撤去工 (ACPφ300) L=122.1m 内、既設管充填工 (ACPφ400・VUφ100) L=15.0m 舗装本復旧工 A=277㎡		
リサイクル検討会 実施年月日	令和 年 月 日実施 (当初・変更)	技術管理課 報告年月日	令和 年 月 日報告 (当初・変更)

I. 建設資材利用計画

[] 内：目標値、 () 内：達成値	土 砂	※砕 石	※アスファルト混合物
再生資源利用率の目標値を達成できない理由	[88 %] (88.3 %)	[88 %] (0 %)	[100 %] (100 %)
再生材の供給場所がない			
再生材の規格が仕様に適合しない		○	
その他 (下の括弧内に記入)			

その他

II. 建設副産物搬出計画・実績

1. 建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊

[] 内：目標値、 () 内：達成値	※建設発生土	コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊
目標値を達成できない理由	[80 %] (0 %)	[100 %] (%)	[100 %] (100 %)
他に再利用できる現場がない			
再利用できる現場の要求する規格に適合しない			
有害物質が混入している			
再資源化施設がない			
その他 (下の括弧内に記入)			

その他

2. 建設汚泥、建設発生木材、建設混合廃棄物

[] 内：目標値、() 内：設計値		建設汚泥	建設発生木材	建設混合廃棄物
目標値を達成できない理由		[99 %]	[97 %]	
		(100 %)	(%)	
他に再利用できる現場がない				
再利用できる現場の要求する規格に適合しない				
有害物質が混入している				
再資源化施設がない				
その他（下の括弧内に記入）				

その他

注）それぞれの品目で再生資源利用率、再資源化率及び再資源化・縮減率が、それぞれの目標値に達しない場合（建設混合廃棄物については、再資源化・縮減率が0%の場合）は、該当品目の理由の欄に○印を付ける。

理由の欄に該当するものがない場合には、「その他」の欄に○印を付け、下の括弧内に具体的に記述する。

※アスファルト混合物は、アスファルト・コンクリート塊の目標値を、※砕石、※建設発生土は、土砂の目標値を準用する。

※本様式は、技術管理課へのリサイクル検討会の実施報告様式を兼ねる。